

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：25013

学校名：平岸西小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 長座体前屈、ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 握力、上体起こし、反復横跳び、20M シャトルラン、50M 走、立ち幅跳び	前回の記録と同程度もしくは上回った種目が少ないが、長座体前屈は札幌市の平均値を大きく上回っている。体育の授業などでもいろいろな動きを意識して取り上げる必要がみえる。
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 長座体前屈、ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 握力、上体起こし、反復横跳び、50M 走、20M シャトルラン、立ち幅跳び	長座体前屈とソフトボール投げは、札幌市の平均値を大きく上回っているが、半分ほど平均値がやや下回っている。いろいろな動きを取り入れ、運動する機会を増やしていく必要がある。
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	運動が好き（体育の授業は楽しい） R7 男子 58.3% (58.3%) 女子 64.0% (48.0%) R6 男子 77.8% (88.9%) 女子 65.6% (62.5%)	運動が嫌い（体育の授業は楽しくない） *やや嫌い、あまり楽しくないを含む R7 男子 4.2% (0.0%) 女子 4.0% (4.0%) R6 男子 2.8% (2.8%) 女子 12.6% (9.4%)	「運動が好き」と「やや好き」を合わせると、男女共に90%以上になるが、身体を使ってのいろいろな運動が足りていないことが感じられる。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

課題探究的な学習の推進

- 発達段階や個人差を踏まえた指導方法を工夫する。
- 夢中になって追究したくなる課題や場を設定する。
- 友達との豊かな関わりを生む指導方法を工夫する。
- 子どもの頑張りを価値付ける教師の評価の在り方を考える。
- ICTを活用し、自らの動きを視覚的に捉える、よりよい動き方を自ら追求する姿につなげる。

運動量の確保

- 適切な運動量を確保した授業展開を工夫する。
- 器械運動週間(マット、跳び箱)を設定し、運動の課題解決を目指して「思考・判断」の場面を工夫する。

教育活動全体を通して、体力向上や運動の習を身に付ける取組を推進する

- りんごっこ活動、委員会主催の体育的活動などの楽しく運動する機会を、児童の自主性を大切にしながら一緒に作っていく。
- 各学級で「体を動かす日」を設定し、休み時間に全員で体を動かす取組を行う。できるだけグラウンドや体育館等へ行くように働きかけ、運動する機会を広げる。
- 「全校なわとびの日」や「全校なわとび週間」を位置付け、三間(仲間・時間・空間)を生かした運動機会の充実を図る。

学校保健年間計画を作成し指導の充実を図る。～養護教諭、栄養教諭との連携～

- 子どもたちにとって安心安全な保健管理を行う。
- 学級活動や保健学習、保健指導など指導の充実を図る。児童だけでなく保護者にも健康における意識を高める。
- 性差によらない取組への意識が高まるような、性指導の充実を図る。
- 学活や給食時間を使い、基本的な生活習慣の改善を子ども自ら意識できるような「栄養教諭による食に関する指導」の充実を図る。
- 栄養教諭による個別の相談指導（肥満、痩身、スポーツする児童等）を行う。

家庭・地域との連携・協働

- 地域や外部団体のゲストティーチャーを活用し、運動の専門性や多様性を生かした指導、場の設定を行う。
- 健康な生活（早寝・早起き・朝ご飯、薬物乱用防止、ゲームやネットとの付き合い方など）や日常的な体力づくりを推奨し、学校ホームページや学校だよりで取組を紹介する。
- スキー、「雪かきチョコボラ・雪遊びチャレンジ」など、冬の札幌ならではの体力づくりの取組を働きかける。